第2回岡山市場再整備検討委員会

# 再整備後の施設規模の考え方（案）

資料４

## 青果

■ 一部の施設については、使用実態や将来の見通しを踏まえて施設規模を適正化・コンパクト化する一方で、機能強化に向けて、必要なスペースを拡充する。

### 施設一覧

| 使用者 | 主な施設 | 現状面積 ㎡ |
|---|---|---|
| 卸売業者 | 卸売場 | 6,142 |
| | 地場そ菜棟 | 1,540 |
| | 青果物低温売場棟 | 690 |
| | バナナ加工棟 | 1,444 |
| | 青果棟南荷捌き場 | 684 |
| | 青果棟南荷積場 | 505 |
| | 青果作業場棟 | 893 |
| | 事務所等 | 2,404 |
| | [新]将来拡張スペース | ― |
| 仲卸業者 | 仲卸売場（店舗・荷捌き場・倉庫・冷蔵庫・加工場等） | 5,271 |
| | [新]常温倉庫 | ― |
| 仲卸組合・給食部 | 給食部荷捌き場 | 770 |
| | 給食部冷蔵庫 | 100 |
| 卸・仲卸・買参 | 青果倉庫・冷蔵庫棟 | 3,089 |
| 仲卸・買参 | 青果加工場・分荷場棟 | 840 |
| | 青果立体駐車場下荷捌き場 | 2,625 |
| 共用部 | 通路等 | 7,991 |
| 計 | | 34,988 |

### 施設規模の考え方（案）

| 方針 | 設定の根拠・考え方 |
|---|---|
| 縮小（70%程度） | 施設集約による作業効率化、使用ルールの見直しを考慮 |
| 縮小（70%程度） | 〃 |
| 拡充（120%以上） | 温度管理機能の強化 |
| 縮小（70%程度） | 使用実態・将来見通しをもとに設定 |
| 拡充（適正規模を確保） | 屋根付き荷捌き場の拡充 |
| 現在と同規模（100%） | 使用実態・将来見通しもとに設定 |
| 拡充（120%以上） | 温度管理機能の強化 |
| 現在と同規模（100%） | 従業員減少の一方で、福利厚生の充実等を見据える |
| 新規（適正規模を確保） | 施設配置に応じて設定 |
| 現在と同規模（100%） | 事業者ごとの拡充・縮小以降や、廃業見込み、現在の空き状況を踏まえて設定<br>※別途、売場外の倉庫・冷蔵庫・加工場等の集約を想定 |
| 新規（適正規模を確保） | [新]施設配置及び使用ニーズに応じて設定 |
| 拡充（150%～200%） | 使用ニーズに応じて必要スペースを確保 |
| 現在と同規模（100%） | 〃 |
| 検討中 | （必要な場合は）使用ニーズに応じて適正規模を確保 |
| 現在と同規模（100%） | 仲卸売場等へ集約 |
| 拡充（適正規模を確保） | 屋根付き荷捌き場の拡充 |

# 再整備後の施設規模の考え方（案）

## 水産

■ 使用実態や将来の見通しを踏まえ、**卸売場等の規模を適正化・コンパクト化（70%程度）することを共通方針**としながら、**機能強化に向けて、必要なスペースを確保**する。

### 施設一覧

| 使用者 | 主な施設 | 現状面積 ㎡ |
|---|---|---|
| 卸売業者 | 卸売場 | 5,402 |
| | 水産活魚売場棟 | 601 |
| | 水産棟南荷捌き場A | 200 |
| | 水産棟南荷捌き場B | 200 |
| | 事務所等 | 2,204 |
| 仲卸業者 | 仲卸売場（店舗・荷捌き場・倉庫・冷蔵庫・加工場等） | 4,490 |
| 卸・仲卸・買参 | 水産冷蔵庫棟 | 3,306 |
| 仲卸・買参 | 水産旧加工場棟 | 648 |
| | 水産新加工場棟 | 555 |
| | 水産立体駐車場下荷捌き場 | 2,100 |
| 共用部 | 通路等 | 7,150 |
| 計 | | 26,856 |

### 施設規模の考え方（案）

| 方針 | 設定の根拠・考え方 |
|---|---|
| 縮小（70%程度） | 使用実態・将来見通しをもとに設定 |
| 縮小（70%程度） | 〃 |
| 拡充（適正規模を確保） | 屋根付き荷捌き場の拡充 |
| 拡充（適正規模を確保） | 〃 |
| 縮小（70%程度） | 使用実態やデジタル化の推進を考慮 |
| 縮小（50%程度） | 事業者ごとの拡充・縮小以降や、廃業見込み、現在の空き状況を踏まえて設定<br>※別途、売場外の倉庫・冷蔵庫・加工場等の集約を想定 |
| 拡充（適正規模を確保） | 場外の卸売業者冷蔵庫を集約、温度管理機能の強化 |
| 現在と同規模（100%） | 使用ニーズに応じて必要スペースを確保<br>※仲卸売場や共同加工場への集約を想定 |
| 現在と同規模（100%） | |
| 拡充（適正規模を確保） | 屋根付き荷捌き場の拡充 |

# 再整備後の施設規模の考え方(案)

## 花き

■ 使用実態や将来の見通しを踏まえ、**卸売場等の規模を施設規模を適正化・コンパクト化(50%程度)することを共通方針**としながら、**機能強化に向けて、一部のスペースを拡充**する。

### 施設一覧

| 使用者 | 主な施設 | 現状面積 ㎡ |
|---|---|---|
| 卸売業者 | 卸売場 | 3,187 |
| | 花き保冷保温売場棟 | 600 |
| | 岡山総合花きA棟 | 約1,000 |
| | 岡山総合花きB棟 | 約1,350 |
| | 事務所等 | 805 |
| 仲卸業者 | 仲卸売場(店舗・荷捌き場・倉庫・冷蔵庫・加工場等) | 405 |
| | 花工場倉庫・加工場 | 約250 |
| 共用部 | 通路等 | 2,146 |
| 計 | | 9,743 |

### 施設規模の考え方(案)

| 方針 | 設定の根拠・考え方 |
|---|---|
| 縮小(50%程度) | 使用実態・将来見通しをもとに設定 |
| 拡充(100~120%以上) | 温度管理機能の強化 |
| 拡充(100~120%以上) | 〃 |
| 拡充(100~120%以上) | 〃 |
| 縮小(50%程度) | 使用実態・将来見通しをもとに設定 |
| 現在と同規模(100%) | 事業者ごとの拡充・縮小以降や使用ニーズを踏まえて設定 |
| 拡充(150%程度) | 加工機能の強化 |